

「FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」
ハンス・ロスリング著 日経BP 2019年1月発行

この本は冒頭 13 問のクイズから始まる。その一つを紹介する。

質問：「世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は過去 20 年でどう変わったでしょう？」

選択肢 A：約 2 倍になった

選択肢 B：あまり変わっていない

選択肢 C：半分になった

あなたはどの選択肢を選んだらろうか？ 答えについては、この本を読むか、自分自身で調べてみればわかるはずである。筆者はこのような世界の事実に関するクイズを様々な国の様々な分野で活躍する多くの人々に出題してきた。そして高学歴でこの種の国際問題に興味のある多くの人でさえ、ほとんどの質問に間違っただけで回答した事実には愕然とする。同じクイズをチンパンジーに出題すると（これはランダムに答えるという意味だが）、3 択問題であるから正答率はおそらく 33%になるであろう。上述の高学歴の人々は、チンパンジー以下の情報しか持っていなかったことになる。

なぜ、優秀な頭脳を持った人々でさえ、チンパンジーに負けてしまうのか？ 筆者は、この回答について長年考え続けてきた。一つの理由は言うまでもなく個々人の知識不足である。さらに、あるときから情報がアップデートされていないことも要因の一つであると気づく。しかし、それだけではなさそうである。この問いについてさらに考え続けていくうちに、ついに一つの結論にたどり着いた。それは、我々が世界について多くの誤解をしており、その原因が以下の 10 の本能によるものだったということだった。

- ①分断本能、②ネガティブ本能、③直線本能、④恐怖本能、⑤パターン本能、
⑥過大視本能、⑦宿命本能、⑧単純化本能、⑨犯人捜し本能、⑩焦り本能

私たちは本能に気づかないことが多い。先日、ある TV 番組で、「昼に食べるカップラーメンより夜に食べるカップラーメンの方がおいしく感じるのはなぜか？」という視聴者からの問いがあった。この質問に専門家はこう答えていた。「人間は大昔には狩猟・採集を主としており、常に飢餓との戦いであった。夜に食物を食べると寝ている間に脂肪として蓄えることができるため、夜の食事がおいしく感じるように脳内であるホルモンが分泌されるためである」と。現代では不要となる本能であり、現代人はこのために肥満への恐怖に苦しめられていることになる。このような本能があることを知っていれば、まだ対処できることが多くなるであろう（もちろんほかにも所説あることは確認すべきである）。

筆者は、10 の本能（無意識に生じる考え方のバイアスと言ってもよい）があることを認識し、その本能を乗り越えることができ、データをもとにした正しい事実を見ることができるようになると主張している。

SNS が普及し、誰もが情報や自分の意見を簡単に発信できるようになり、世の中は様々なデータであふれかえっている。無防備にデータを浴び続けると、事実を見誤り、間違っただけで結論に行くつく可能性は極めて高い。高専で学ぶ学生諸君は、社会に出てから工学に携わることが多く、様々な情報を駆使しなければならない。常に批判的思考を持ち、データの見せ方に騙されず、正しくデータを読み取る習慣を身につける必要がある。

この本で紹介される 10 の本能のうち、1 つでも自分で気づけなかった「思い込み」に気づくだけで、世界の見え方は変わってくるに違いない。興味のある方はぜひ一度読んでみてほしい 1 冊である。